

2019年12月15日

## 福音書からのメッセージ

目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。(マタイによる福音書 11章5節)

「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか」、洗礼者ヨハネが自分の弟子たちを送り、イエス様に尋ねさせたこの言葉は、今イエス様のご降誕を待ち望むわたしたちにとって、どのような意味を持つのでしょうか。

洗礼者ヨハネは、イエス様のことを前から知っていました。マタイ福音書の3章13節には、洗礼者ヨハネがイエス様に洗礼を授ける場面が描かれています。そのときヨハネは、イエス様にこう言って自分から洗礼を受けることを思いとどまらせようとします。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」と。

ヨハネはその前に、「わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」と人々に言っていました。きっとヨハネはイエス様のことを、「後から来る方」だと思っていたのだと思います。それから彼は、人々に悔い改めを迫っていきました。権力者をも恐れず、領主であるヘロデの罪を責め、そのために牢に入れられていました。ところが「後から来る方」であるはずのイエス様は、火と聖霊で人々を裁こうとされません。そこで疑問が生じたのでしょうか。あなたは本当にわたしの待っていた方なのかと。

その問いに対し、イエス様はご自分がなされてきたことを語られました。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重



い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされていると、イザヤ書 35章を思い起こさせる言葉を語り

ます。そのイザヤ書 35章の言葉は、「神は来て、あなたたちを救われる」という言葉に続いて書かれたものです。

つまりイエス様がなされたことは、神さまが来られたということ。神さまがみ手を伸ばされたということ。そして神さま自らが人々を救われているということを示しているのです。目の見えない人、足の不自由な人、重い皮膚病を患っている人、耳の聞こえない人、そして貧しい人。自分の力で神さまの元にたどり着けない人のところに、神さまが来て下さる。それが福音、喜びの知らせなのだということです。

そして今、多くの人たちが、クリスマスを待ち望んでいます。その中には、前が見えず、一歩も進むこともできず、社会から疎外され、その耳に福音が届かず、神さまを心から求めている人たちがいます。わたしたちもその一人なのかもしれません。そこに、神さまが手を伸ばし、イエス様を与えて下さるのです。

その日を心静かに待ち望みましょう。主は来られます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>